

# 子育て支援とカウンセリング(1)

## 保育者のカウンセリングに対するニーズを中心に

石川 洋子\*・井上 清子\*\*・会沢 信彦\*\*\*

### Child Care Support and Counseling (1) Emphasizing Preschool Teachers' Need for Counseling

Hiroko ISHIKAWA Kiyoko INOUE Nobuhiko AIZAWA

要旨：本研究では、保護者対応の基礎的なスキルとなるカウンセリングに対するニーズについて、子育て支援に関わる保育者達への調査と保育雑誌の保護者対応記事の分析を行い検討した。

その結果、保育者達が、特に保護者対応に問題を感じ、対応に苦慮していることがわかった。また、保育者達のカウンセリングに対するニーズは高く、年齢や勤務年数、役職に関わりなくこれが求められていることもわかった。

カウンセリングの研修会への参加については、研修会の情報や機会がなかったり、時間や参加費の問題等が指摘されていた。研修会に参加した者が、参加していない者よりも有意に外部の専門家や機関に相談することができていた。

研修の機会を増やし、その情報を数多く提供することは、子育て支援にあたる保育者達の保護者対応をスムーズにし、また問題や困難を感じた時の相談や対応のネットワークを構築することにもなる。保育者間の関係構築のためにもカウンセリングが求められており、保育者支援にもつながると思われた。

キーワード：子育て支援 カウンセリング 保護者対応 保育者研修 保育雑誌

#### 目的

##### 1. 子育て支援の現状

保育所や幼稚園等における子育て支援の比重が、ますます高まっている。少子化や人間関係の希薄化等による家庭の養育・教育機能の低下が指摘されており、その援助を目的とするものである。

平成6年に、「今後の子育て支援のための施策の基本方向」(エンゼルプラン)、平成11年に、「重点的に推進すべき少子化対策の具体的実施計画」(新エンゼルプラン)が策定され、

子育て支援のためのさまざまな計画が、各自自治体で取り組まれている。平成15年には「次世代育成支援対策推進法」が成立し、子育てへの社会的支援を含むさまざまな策が練られているが、いずれも実効を上げるに至っていない。

##### 2. 子育て支援とカウンセリング

厚生省(当時)から出された保育所保育指針(平成11年改訂)には、保育所における子育て支援のあり方が明確に提示されている。また保育士養成のためのカリキュラムとして「家族援助論」が必修科目として新設される等(平成14年)、子育て支援に関する学習が強化されている。

一方、文部科学省による「幼児教育振興プログラム(平成13年策定)でも、幼稚園にお

\*いしかわ ひろこ 文教大学教育学部心理教育課程

\*\*いのうえ きよこ 文教大学教育学部心理教育課程

\*\*\*あいざわ のぶひこ 文教大学教育学部心理教育課程

ける子育て支援の充実を図る方向性が示された。幼稚園教育要領（平成10年改訂）にも幼稚園における子育て支援のために相談を行うことなどが明記されている。

さらに、本年出された中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」（平成17年）にも、具体的施策の中で、子育て支援の推進や幼稚園等施設における地域の人材活用として保育カウンセラーの例があげられている。

一方、幼稚園教諭免許取得のための教職科目の中には、カウンセリングの知識を含んだ教育相談の科目の修得が必修として位置づけられている。

子育て支援に関するさまざまな学習の必要性、特にカウンセリングの知識や技術習得の重要性が掲げられているが、一方、子育て支援の現場にいる保育者達には、これが十分行き渡っているとは言えない状況がある。

保育者や保育の現場におけるカウンセリングに関する先行研究を見ると、橋本等（2005）は、子育て支援センター職員への調査の中で、必要と思われる研修として「カウンセリングの技術」が高い割合としてあげられているとしている。

藤後（2001）は、保育所へのカウンセラー導入を契機にその変化をプロスペクティブに明らかにしている。このような幼稚園や保育所におけるカウンセリングの事例もいくつか報告されている。

またコンサルテーションの概念をもとにした研究（秋田他1995）や保育カンファレンスを行った事例研究（田中他1996）等もある。

以上のように、保育現場における子育て支援の重要性の高まりと共に、保護者支援の方法や技術の獲得とその能力向上のため、特にカウンセリングに対するニーズが高くなって一方、その研修の機会や現場で必要とされる内容等の研究はまだ少ないのが実情である。

これらの問題意識のもとに、今回、保育所や幼稚園等子育て支援の現場におけるカウ

セリングに対するニーズを中心に調査・研究を行ったので報告する。

## ．研究対象と方法

本研究では、次の2つの調査をもとに検討した。

1つは、文教大学生涯学習センターと日本教育カウンセラー協会共催の「子育て支援カウンセリング講座」に参加した保育者を対象とした、保育者達の保護者対応の様相やカウンセリングに対するニーズを中心とした調査である。

もう1つは、保育者達に読まれている保育雑誌の中の保護者対応に関する記事の分析を通じた、保護者対応のための具体的内容やカウンセリングに対するニーズの検討である。

これらは以下のような研究方法と手順をとった。

### 1. 保育者を対象とした保護者対応やカウンセリングニーズ調査

#### 調査対象

「子育て支援カウンセリング講座」に参加した、保育所や幼稚園等子育て支援の現場にいる者121名。

#### 調査方法

保護者の問題とその対応、カウンセリングに対する具体的ニーズ等を主に自由記述の形で尋ねる質問紙を作成し、「子育て支援カウンセリング講座」開催中に配付し回収した。

#### 調査時期

平成17年3月、8月。

### 2. 保育雑誌における保護者対応の記事の分析

#### 調査対象

保育者に比較的読まれている次の2誌を対象とした。

Y誌 - 小学館から出版の月刊誌。創刊は1955年（昭和30年）5月。

R誌 - 学習研究社から出版の月刊誌。創刊

は1990年(平成2年)4月.

調査方法

各誌の記事の中から、保護者対応に関する記事を取り上げ、頁数と内容(日常場面での対応記事、行事等特定の場面での対応記事、精神疾患等病気を持つ保護者や障害を持つ子どもの保護者など特定の対象への対応記事の3つに分類)を検討した.

調査対象時期

両誌共、2000年(平成12年)4月~2005年(平成17年)10月まで.

結果

1. 保育者を対象とした保護者対応やカウンセリングニーズ調査

調査対象の属性

調査対象121名のうち、女性117名(96.7%),男性4名(3.3%)である.年齢は、表1のよ

表1 年齢

	N	%
29歳以下	10	8.3
30~39歳	26	21.5
40~49歳	39	32.1
50~59歳	36	29.8
60歳以上	8	6.6
不明	2	1.7
計	121	100.0

表2 職業・役職と勤務年数 % (N)

		勤務年数				計
		10年未満	10~19年	20~29年	30年以上	
保育所	保育士	45.0	25.0	20.0	10.0	100.0(20)
	主任等	0	17.4	56.5	26.1	100.0(23)
	所長等	10.0	10.0	30.0	50.0	100.0(10)
幼稚園	教諭	56.3	12.5	25.0	6.3	100.0(16)
	主任等	16.7	66.7	16.7	0	100.0(6)
	園長等	9.1	45.5	9.1	36.4	100.0(11)
小・中・高校	教諭	25.0	75.0	0	0	100.0(4)
	その他	66.7	0	0	33.3	100.0(3)
その他		60.0	26.7	6.7	6.7	100.0(15)
計		30.6	25.9	25.0	18.5	100.0(108)

\*\* 1%水準で有意差

うに、20歳代~60歳以上にまでにわたっている.平均は45.0歳である.

勤務年数の平均は17.1年である.職業・役職と勤務年数の関係は表2のとおりであり、保育所よりも幼稚園勤務者の勤務年数が少ない傾向があった.

子どもや保護者との関わり

子どもや保護者と関わる中で、問題や困難を感じるかどうかを複数回答で尋ねたものが、図1、図2である.

子どもの問題としては、情緒的あるいは行動上の問題をあげていた者が多かった.「落ち着きがない」「集団に入れない」等、保育を行う上で困る行動を77名の者があげていた.

保護者の問題としては、保護者の性格や行動上の問題が多くあげられていた.「攻撃的」「感情的」「苦情が多い」「社会性がない」「自分のことで手一杯」等若い保護者へのとまどいが多く示されている(55名).その他「基本的な子育てがわかっていない」「子どもに関心がない」等、子育て能力や親子関係作りへの疑問が出されている.

しかし一番多く指摘されていたのは、保護者と保育者の関係の問題である(56名).「信頼関係・協力関係が築けない」「コミュニケーションが取れない」「子どもが障害を持つ場合の保護者対応が難しい」等、子育て支援のための基礎となる保護者との関係作り課題を抱えている保育者が少なくないことがうかがえた.

カウンセリングのニーズ

カウンセリングへの関心の有無と必要性等カウンセリングのニーズを尋ねたものが、表3である.「関心がある」「必要性を感じる」のいずれの項目にも高い数値が示されている.

表4は、勤務年数とカウンセリングの必要性を感じる項目の関連を見たものであるが、勤務年数が長い者も短い者も共に必要性を感じている.

以前に研修会に参加したことがあるかどうかを尋ねたところ、参加したことがある者が51.3%、ない者が48.7%であった.参加した

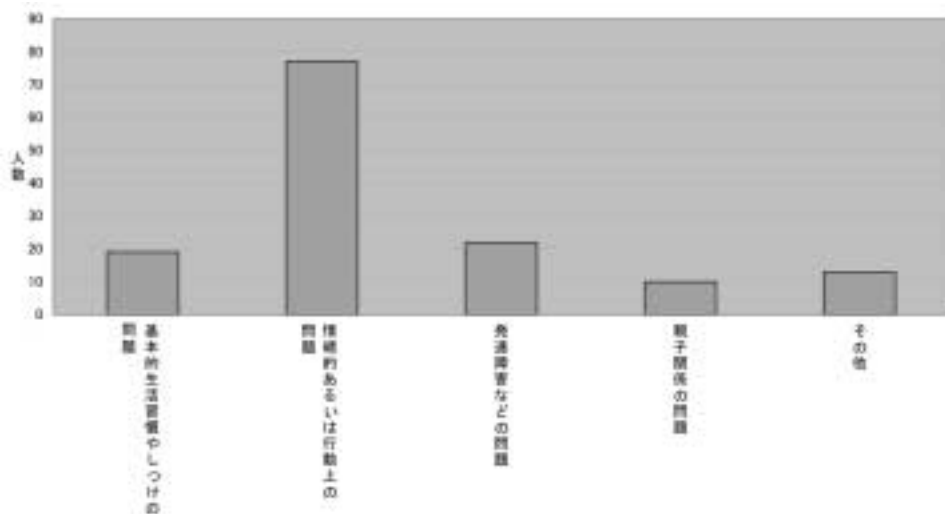


図1 子どもの問題 (複数回答)

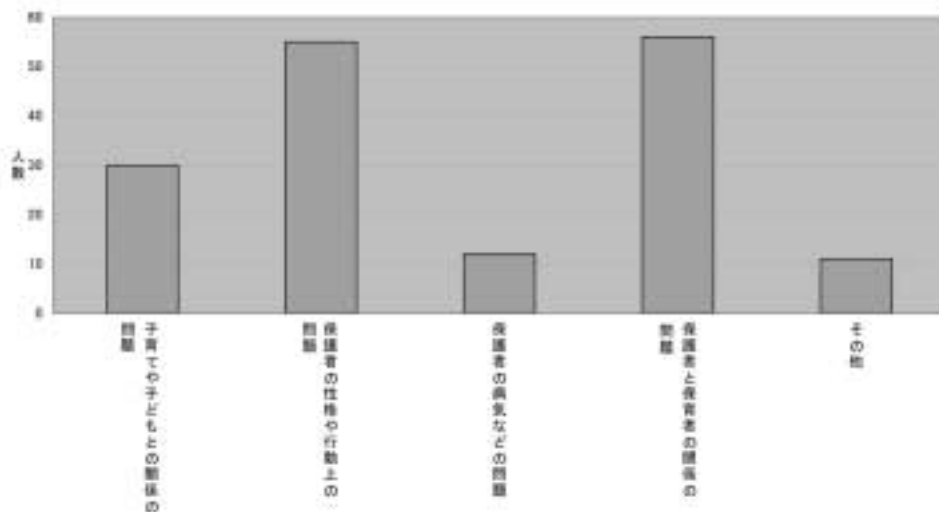


図2 保護者の問題 (複数回答)

表3 カウンセリングについて

	とてもある	少しある	どちらとも いえない	計
関心があるか	104 (86.0)	17 (14.0)		121 (100.0)
必要性を感じるか	109 (90.1)	11 (9.1)	1 (0.8)	121 (100.0)

表4 勤務年数×カウンセリングの必要性 % (N)

	必要性		計
	とてもある	少しある	
10年未満	91.4	8.6	100.0 (35)
10～19年	90.0	10.0	100.0 (30)
20～29年	96.3	3.7	100.0 (27)
30年以上	85.0	15.0	100.0 (20)

表5 研修会への参加回数

	N	%
1回	14	25.5
2回	15	27.3
3回	7	12.7
4回	4	7.3
5回以上	15	27.2
計	55	100.0

ことのある者の参加回数は約半数が1～2回であるが、5回以上と数多く参加している者も27%ほどいた(表5)。平均は5.3回である。

表6で、勤務年数別に参加の有無を見てみると、年数が長いの方が参加率は高かった。また表7で、役職別に参加の有無を見てみると、主任や所長・園長等役職が上がるほど、参加率が高まっているのがわかる。

今回の調査対象は、「子育て支援カウンセリング講座」に参加した保育者であるため、高いニーズがあるのも当然かもしれないが、勤

表6 勤務年数×研修会参加の有無 % (N)

	研修会参加		計
	有	無	
10年未満	37.1	62.9	100.0 (35)
10～19年	50.0	50.0	100.0 (30)
20～29年	59.3	40.7	100.0 (27)
30年以上	66.7	33.3	100.0 (18)

表7 役職×研修会参加の有無 % (N)

	研修会参加		計
	有	無	
保育士・幼稚園教諭	42.1	57.9	100.0 (38)
主任・主査	50.0	50.0	100.0 (28)
所長・園長	61.9	38.1	100.0 (21)

務年数や年齢、職場の違いに関わりなく必要性を感じ、また勤務年数や役職が上がるほど実際に多く参加していることは注目すべきであろう。

一方、研修に参加したことがなかった者58名にその理由を尋ねたものが、図3(複数回答)である。「情報がない」「機会がない」「時間がない」という者が多数を占めていた。研修に参加していなかった者も、今後研修の機会が増えること、さまざまな情報を得ること、参加しやすい状況になることを強く望んでいると思われた。

カウンセリングの必要な場面と学びたい内容

では、どのような時にカウンセリングの必要性を感じているのだろうか。その具体的な場面を自由記述の形で尋ねたものが図4である(複数回答)。

「日常での子どもとの関わり」や「問題を感じる子どもとの関わり」でも必要性を感じるとされているが、際立って多いのが、「日常での保護者との関わり」と「問題を感じる保護者との関わり」であった。

前述の図2で見たように、保育者達は保護者との関係作りに問題を感じており、その解決策として、カウンセリングの必要性を強く

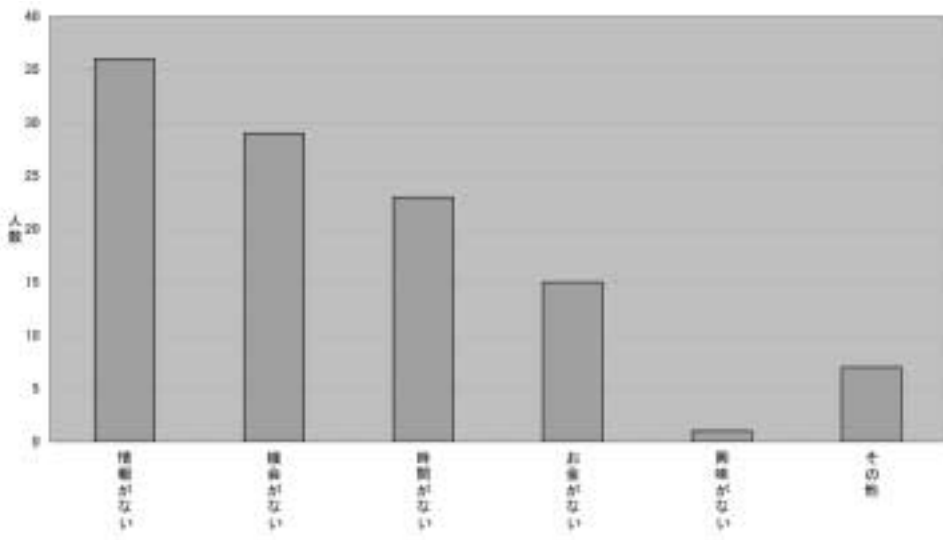


図3 研修会に参加しなかった理由(複数回答)

感じているのがわかる。

その他に、保育者間の関わりのため、あるいは、自己研鑽のためと言った理由もあげられていた。

ではこれらの課題を抱えた保育者達は、何を学びたいとしているのだろうか。その内容を選択肢の中から複数回答で自由に選んでもらったものが図5である。カウンセラーの「基本的態度」やカウンセリングの「基本技法」「専門技法」等を多くの者が選択している。

「親の心理」「子どもの心理」や「発達障害」なども学びたい事項とされていた。なお、「子どもの心理」と「心理検査」に対するニーズは、保育園職にある者よりも幼稚園職にある者の方が高かった。幼稚園の特性が表れているのかもしれない。

問題を感じた時の相談者

最後に、保護者対応などで問題を感じた時に、現状では誰に相談しているかを尋ねてみた。図6は、その相手を先に述べた研修会参

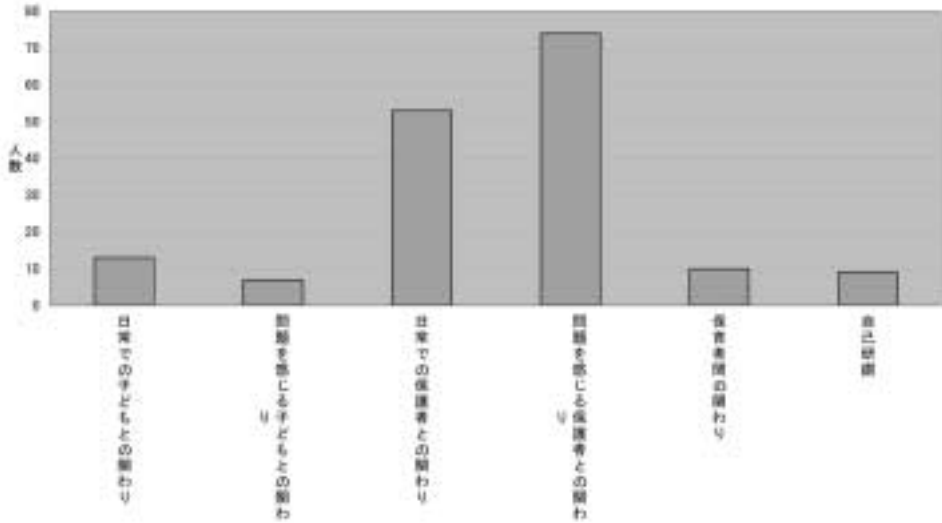


図4 カウンセリングの必要性を感じる場面（複数回答）

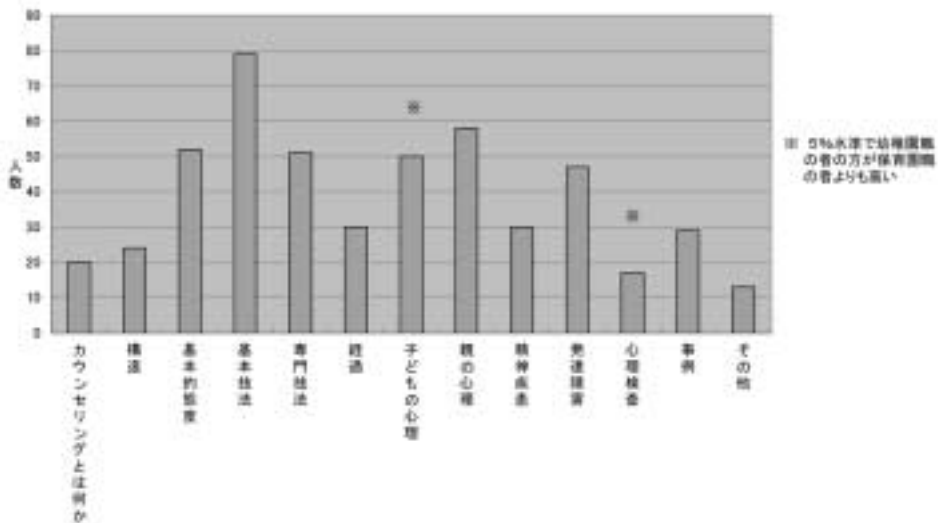


図5 カウンセリングについて学びたいこと（複数回答）

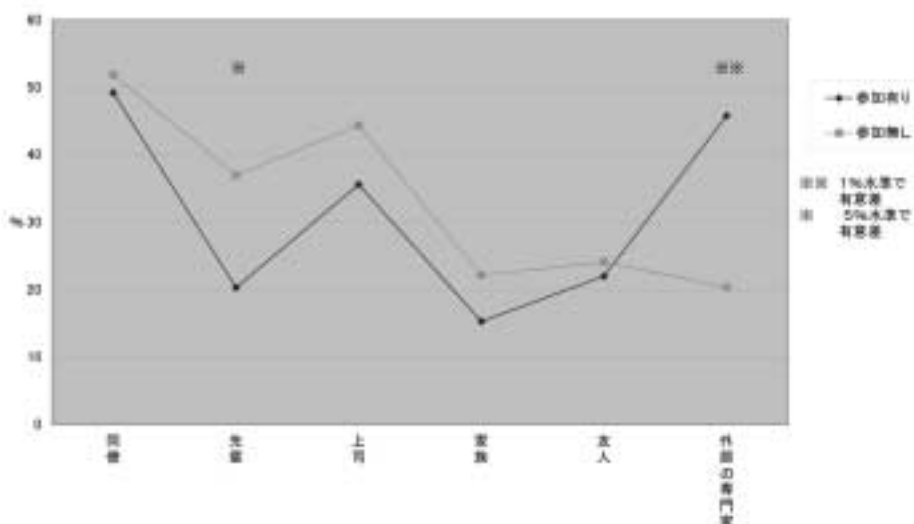


図6 相談する人(研修会参加別・複数回答)

加別に見たものである。一般には、同僚や上司、先輩に相談する者が多くなっているが、その割合は、研修会に参加した者よりも、参加していない者の方が高くなっている。特に先輩に相談する者では、5%水準の有意差が見られた。一方、研修会に参加した経験のある者は、参加していない者に比して、有意に外部の専門家に相談するとしている(1%水準)。研修会に参加するということは、保護者対応等で困った時の手だてを見つけることができると言えるのかもしれない。

## 2. 保育雑誌における保護者対応の記事の分析

カウンセリングに対するニーズやその内容を知ることがを企図し、保育雑誌2誌の保護者対応の記事を分析した。記事は、子育て支援施設のルポルタージュや特定の人物の対談記事のようなものを除いた、保護者対応の特集記事にあたるもののみを対象とした。

2誌共に、2000年4月～2005年10月までの約5年半の記事を対象とした。月刊各誌の総頁数は、Y誌82頁、R誌84頁である。

保護者対応の記事は、大きく分けて、1.日常場面での保護者への対応、2.保護者会や参

観、運動会等特定の行事における保護者への対応、3.病気を持つ、あるいは子どもが障害を持つ等特定の保護者への対応の3つに分けられたので、この枠組みで記事を分類し作表した(表8)。

### 記事の内容とカウンセリング

各誌共、保育内容等に関する記事が多い中で、保護者対応の記事は各年度の中で必ず入れられていた。

その内容は「時間にルーズな保護者」「個人面談レッスンABC」というように、保護者対応のノウハウを具体的に記しているものもあれば、「保護者との会話入門、カウンセリングマインドで」「苦手な保護者と信頼関係を結ぶには?」のように、保護者との関わり方をカウンセリングの基礎的な知識をもとに、トータルにまとめているものもあった。

カウンセリングという言葉が使われていない記事もあるが、内容として、保護者に対する基本的な姿勢や聴き方、答え方等が書かれていた。読者の保護者対応の方法へのニーズが高いことがわかる。そして記事の内容としては、カウンセリングをベースにしたものが書かれていることが指摘できる。

2002年度を除き、各誌共コンスタントに記

表8 保育雑誌（月刊誌）における保護者対応の年間記事数

	日常場面での 対応記事数		特定の行事で の対応記事数 *1)		特定の保護者 への対応記事 数 *2)		記事の年間ト ータル頁数	
	Y誌	R誌	Y誌	R誌	Y誌	R誌	Y誌	R誌
2000.4 ~ 2001.3	12	10	3	4	0	1	24	70
2001.4 ~ 2002.3	10	6	4	3	2	3	31	56
2002.4 ~ 2003.3	1	1	1	2	1	1	4	16
2003.4 ~ 2004.3	1	9	0	5	1	2	11	50
2004.4 ~ 2005.3	2	8	1	3	2	4	34	55
2005.4 ~ 2005.10	1	3	1	1	1	1	15	19
2000年度 ~ 2004 年度の平均	5.2	6.8	1.8	3.4	1.2	2.2	20.8	49.4

\*1) 保護者会や運動会等の行事

\*2) 病気を持つ、あるいは子どもが障害を持つ等の特定の保護者

\* 1誌の頁数はY誌82頁、R誌84頁

事を載せているが、総頁数はY誌82頁、R誌84頁とほとんど同じであるが、R誌の方が記事の総分量が多く、年間のトータル頁数の平均は、Y誌20.8頁、R誌49.4頁であった。

#### 保護者対応記事の経年的変化

##### 1. Y誌

記事の内容を経年的に見てみると、Y誌は、記事数で見ると2002年から少なくなっているものの、頁数としては2002年を除き、同じような数値となっている。1つの記事の分量が多くなっているためであり、「保護者との会話入門、カウンセリングマインドで」「保護者とのつきあい方」など基本的なことが丁寧に説明なされている。

また、行事対応の記事数が少なくなると同時に、病気に罹患していたり子どもが障害を持つ等特定の保護者対応の記事に力点が置かれてきている傾向がある。これも保育者達のニーズに対応した結果であろう。

##### 2. R誌

R誌は、2002年を除き、どの年度も「保護者とグッとコミュニケーション」というようにシリーズものにして、大体月毎にコンスタントに記事を載せている。2002年度を除き、毎月4～6頁が組まれている。総頁数から見ると6%程度ではあるが、やはり読者のニーズに対応したものと言えよう。

R誌は、行事対応の記事も経年的に減ることもなく、コンスタントに載せられている。特定の保護者対応の記事は、「発達障害の理解とサポート」のようにシリーズものにして重視しており、Y誌と同様、増える傾向がうかがえた。

#### 考察

子育て支援に関わる保育者達の調査と保育雑誌の保護者対応記事の分析を行った結果、保育者達が、特に保護者対応に問題を感じ、情報を求めながら苦慮していることがわかった。このためカウンセリングに対するニーズは高く、年齢や勤務年数、役職に関わりなくこれが求められていた。

研修会への参加でも、情報やその機会がなかったり、あるいは参加費の問題等が指摘されていた。研修会に参加した者が、参加していない者よりも有意に外部の専門家や機関に相談するとしており、保護者対応等で困った時の手だてを見つけることができていると言える。

研修の機会を増やし、その情報を数多く提供することは、子育て支援にあたる保育者達の保護者対応をスムーズにし、また問題や困難を感じた時の相談や対応のネットワークを



構築することにもなる。保育者間の関係構築のためにもカウンセリングが求められており、保育者支援にもつながると言える。

謝辞 本研究の調査にご協力いただいた子育て支援に携わる保育者の皆様方に、厚く御礼申し上げます。

#### 引用文献

1. 秋田喜代美他「コンサルテーションによる保育環境の構成」保育学研究，第33巻第2号，1995年，p.70-77
2. 田中三保子，田代和美他「保育カンファレンスの検討 第1部，第2部」保育学研究，第34巻第1号，1996年，p.29-42
3. 藤後悦子「保育現場における心理相談員の役割」保育学研究，第39巻第2号，2001年，p.66-72
4. 橋本真紀他「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題」保育学研究，第43巻第1号，2005年，p.76-89

付表 保育雑誌の分析 保護者対応の記事について

Y誌

NO	年月日	記事のタイトル	頁数	日常場面での対応	特定の行事での対応	特定の保護者への対応
1	2000. 4	保育者と保護者の関係って何でしょう？	2			
2	5	時間にルーズな保護者	2			
3	6	ウチの子のこと、すべて知ってほしい！	2			
4	7	親や子どもたちに、レッテルをつける保護者	2			
5	8	保護者の要求の受け止めと、受け入れ	2			
6	9	無意識の手出し	2			
7	10	大丈夫！？子どもに、園に無関心	2			
8	11	保育室の中のもう一人の保育者	2			
9	12	保育者の連携プレー、大丈夫？	2			
10	2001. 1	その常識、非常識	2			
11	2	子どもより私のことをかまってくれ	2			
12	3	じっくり、じっくり、ゆったりと	2			
			(24)	(12)	(3)	(0)
1	4	4月の懇談会を上手に乗り切る、進める	2			
2	5	保育参観、保護者懇談会の持ち方	7			
3		「どうしよう」、ママの卵は不安がいっぱい	2			
4	6	いつもドット@おしゃべり.com	2			
5	7	5時からだけ、大丈夫！？	2			
6	8	きれい、キレイが、だーいすき！	2			
7	9	(-) × (-) = (+)	2			
8	10	「よろしく！」から手を取り合って「一緒に！」	2			
9	11	この子の問題、さてどこから・・・	2			
10	12	この子の問題、さてどこから・・・	2			
11	2002. 1	ちょっとちょっと、お母さんてばあ～	2			
12	2	違っているからステキだよ	2			
13	3	「虐待！？」	2			
			(31)	(10)	(4)	(2)
1	5	保護者との会話入門 カウンセリングマインドで	4			
			(4)	(1)	(1)	(0)
1	2003. 6	保護者とのつきあい方 事例別アドバイス と×	11			
			(11)	(1)	(0)	(1)
1	2004. 5	保護者とのつき合い方	16			
2	11	保護者とどう向き合うどうつきあう	18			
			(34)	(2)	(1)	(2)
1	2005. 5	もう悩まない！あなたを変える保護者とのつき合い方	15			
		(2005.4～10)	(15)	(1)	(1)	(1)

子育て支援とカウンセリング(1)

・ R誌

NO	年月日	記事のタイトル	頁数	日常場面での対応	特定の行事での対応	特定の保護者への対応
1	2000. 4	保護者200人に聞いたわたしたちの“園えらび”	5			
2	5	どうする？ 家庭訪問 なにする？保育参観	5			
3	6	“気になる子”その保護者へ	5			
4	7	子育て、しつけをするのは保護者？保育者？	5			
5	8	園においでよ、お父さん！	5			
6	9	運動会 - 保護者は何を求めている？	5			
7	10	データで考える ケンカ・ケガの対応どうする？	5			
8	11	よくいる、こんな子！よくある、こんなこと！ 保護者がのぞむ対応とは？	5			
9	12	育児に悩む保護者に、保育者ができることって？	5			
10	2001. 1	個人面談レッスンABC	4			
11		育児に悩む保護者に、保育者ができることって？	5			
12	2	“通信”で保護者とつながりたい	5			
13	3	保護者だって、園とつながりたい！	5			
14		園での人間関係を見直そう！	6			
			(70)	(10)	(4)	(1)
1	4	保護者が望むのはこんな保育者	5			
2	5	保育者、保護者にとって、よりよい「家庭訪問」の形とは？	5			
3	6	頼りにしているよお父さん	5			
4	7	保護者が気にする子どもの発達	5			
5	8	保護者の願い どんな子どもに育ててほしい？	5			
6	9	保護者も楽しむ、参加する運動会に！	5			
7	10	障害をもつ子どもの就学相談	6			
8	11	「保護者も満足」の発表会にしたい！	5			
9	12	保護者の悩みにどう対応？	5			
10	2002. 1	困った保護者、苦手な保護者	5			
11	2	子どもの虐待 そのとき保育者はどうする？	5			
			(56)	(6)	(3)	(3)
1	5	初めての保育参観・懇談会 成功ノート	4			
2	9	保護者支援と子どもの対応	6			
3	2003. 2	年度末の個人面談&懇談会	4			
			(16)	(1)	(2)	(1)
1	4	4月の保護者は不安でいっぱい！	6			
2	5	園のようすをどう伝える？	4			
3	6	お父さんの本音、聞いてみました	4			
4	7	保護者の悩みをサポートしたい	4			
5	8	保護者への苦手意識をなくした	4			

6	9	障がいを持つ子の保護者対応	4			
7	10	けんかトラブル 保護者への伝え方と対応	4			
8	11	けがや事故「起きないために」と「起きたとき」	4			
9	12	入ってみてわかる園と保育者	4			
10	2004. 1	面談はこれで安心のポイント10	4			
11	2	後悔・反省 心にひっかかるあのできごと	4			
12	3	保護者に聞いてみました 園での行事&活動で思うこと	4			
			(50)	(9)	(5)	(2)
1	4	出会いの4月、保護者はどんな気持ち？	6			
2	5	お知らせ・提出物、そして忘れ物・・・保護者にどう伝えますか？	5			
3	6	「気になる生活習慣」どう伝える？	5			
4	7	行事を通して、伝えたいこといっぱい！	4			
5	8	子育てって楽しい？ つらい？	4			
6	9	けんかとけが、どう伝える？	4			
7	10	個人面談成功術	4			
8	11	「伝わる」懇談会にするために	4			
9	12	発達障害の理解とサポート 周囲の理解を得るために	4			
10		「心が不安定」な保護者にどう接する？	4			
11	2005. 1	発達障害の理解とサポート 子どもと保護者の「生きづらさ」に寄り添って	4			
12		苦手な保護者にどう対応する？	4			
13	2	多国籍保護者 園への思い	4			
14	3	「進級・就学の不安」への対応	4			
			(55)	(8)	(3)	(4)
1	4	4月の保護者は、不安がいっぱい	4			
2	5	たいせつなお知らせ、保護者に確実に伝えるには？	4			
3	7	ちょっとしたくふうと気配りで保護者も納得！ の行事に	4			
4	9	苦手な保護者と信頼関係を結ぶには？	4			
5		発達障害の理解とサポートQ & A	3			
6		(2005.4～10)	(19)	(3)	(1)	(1)

\* 総頁数は、Y誌 - 82頁、R誌 - 84頁

\* 特定の行事とは、保護者懇談会や運動会など

\* 特定の保護者への対応とは、病気を持つ保護者や障害を持つ子どもの保護者などの対応